

親子聖書日課

[日]「まさか私のことでは」と思うほど、弟子達の信仰は不確かでした。強がりをいったペトロも主を裏切りました。「私は大丈夫」と言える人は一人もいません。罪を悔い改め、主の赦しに与り、聖霊の力を頂く時、信仰は確かなものになります。

[月]祈りの素晴らしさは、「しかし」があることです。自分の願いだけでは終わりません。「しかし、御心のままに」と主にゲタを預けます。主が最善を成して下さると信じるからです。何を願ってもよいですが、最後は「しかし」を忘れないでね。

[火]主はいかなる中傷に対して、一言も答えませんでした、「お前は救い主か」との問いに、はっきり答えました。私達は幾らでも自己弁護しますが、福音を語ることに黙していませんか。主の忠実な僕として、語るべきことを大胆に語りましょう。

[水]群衆心理は恐ろしいものです。自分ではいけないと思っても、周りの人がしていると、つい同調します。主を「十字架につけろ」と叫んだのも群衆でした。人を見て生きるのではなく、神を見上げて生きましょう。どんな時も正しく生きれます。

[木]無理やり奉仕したくないですね。しかし、それは強いられた恵みです。シモンも無理やり、それも当然、主の十字架を担がされたことをきっかけで、彼の家族は救われました。望まない奉仕でも、主の恵みとして担ぐ時、祝福が待っています。

[金]主が「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ」と十字架で叫ばれたのは、私達の罪の身代わりとして、神から裁きを受けたからです。私達への罪の裁きは、主の血潮で取り除かれました。罪人の叫びを私達に代わってして下さい、主へ感謝しましょう。

[土]復活された主は、弟子達の故郷であり、荒んだ社会であったガリラヤに行かれ、そこで働かれました。今日のガリラヤとは、日本の社会そのものです。一人で悩んでいないで、先立たれる主にお会いして、主の力と慰めを頂いて生きましょう。



NO.1946 2026.1/11-17 名前

	聖書	問 題	答 え
日	マルコ 14:12-26	弟子たちは心を痛めて、何と代わる代わる言い始めましたか。	
月	14:27-42	しかし、私の願うことではなく、何が行われますように主は祈りましたか。	
火	14:43-65	弟子たちは皆、イエスを見捨ててどうしましたか	
水	14:66-15:15	群衆は何と叫びましたか。	
木	15:16-32	シモンに兵士たちはイエスの十字架をどのように担がせましたか。	
金	15:33-47	3時にイエスは大声で、何と叫ばれましたか。	
土	16:1-11	復活された主は、あなたがたよりも先にどこへ行かれましたか。	
感想と祈りの課題			